

# AOYAMA OIKOS NOMOS



青山学院大学経済学部同窓会会報

2006. 4. 1 アオヤマオイコスノモス 第11号

## 同窓会主催の講演会について……

— 同窓会主催の次回講演会は5月11日午後6時からと決まりました。

担当役員 林 実 ('73)

参加費は無料 参加者制限もございません。—

年会費をお支払い下さっているアクティブ同窓会会員数が伸び悩んでいる状況下、複数の会員から「会費を支払っているアクティブ会員へのインセンティブをより強く出して欲しい」との要望が出されました。個人情報保護法が施行される以前には、「会員名簿」を発行することを業務計画として挙げていたのですが、法施行により難しくなりました。そこで一昨年より常任幹事会においてインセンティブとして何が良いのか対策を練り、会員増強策の一環として講演会を年数回実施することから始めようということにし、総会決議を経て昨年6月より開始いたしました。

第一回は、ジャーナリスト 島野 清志 氏による「青山学院を外から評価する」、昨年11月の第二回は第一生命経済研究所 チーフエコノミスト 飯塚 尚己 氏による「日本経済の構造変化と景気展望」を実施し、各回とも50名弱の参加を得ることができました。特に第二回に於いては、現役生へ同窓会の存在と活動を知らせるため、正門へのポスター掲示、学内LANにより就職部掲示版へも掲載を行い、就職活動を行う学

生へも企業面接で役に立つようにと参加のアプローチをいたしました。参加された現役生からのアンケートも含め、判り易い講演であったと好評でした。講演会に関するお知らせその他活動状況につきましては、経済学部同窓会ホームページに掲載いたしておりますのでご覧ください。

なお、第三回を本年5月11日(木)午後6時[場所:学内12号館(教室未定ですが、経済学部同窓会ホームページ、同窓会からのお知らせをご参照ください。)]より みずほ証券チーフマーケットエコノミスト 上野 泰也 氏による「内外経済とマーケットの今後」を予定しております。参加費は無料です。是非会員皆様におかれましては、ご友人ご家族へもお声を掛けて頂きご来校くださることをお願い申し上げます。経済学部生だけでなく他学部学生の来場も大歓迎です。

経済学部同窓会ホームページアドレスは下記の通りです。詳細は決定次第ホームページに掲載致しますのでご覧ください。

<http://www.econ.aoyama.ac.jp/dousoukai/toppage/index.html>

## 新学部長ご挨拶

### 「学部の遺伝子を伝えるため」

いつの時代も、そこに生きる者にとっては常にその時代が激動の時代であると言えるでしょう。そして、いま私たちの前には、新学部、二部改組、新学科、青山キャンパス再開発、新図書館、更には「少子化」と「ゆとり教育」への対応と、学部教授会に突きつけられた課題はどれをとっても難しいものばかりが立ちはだかっているように思えます。

生物は環境の激変に対してさまざまな戦略で種(遺伝子)の生存を勝ち取っていくといえます。わたしたち、経済学部にかかわる教員・職員は、いまこの激動のときをどう乗り切るか知恵を出し合い、戦略を見つけ、先輩から受け継いだ学部の精神(遺

伝子)を伝えるため、勇気をもって行動を起こそうとしています。

このたび、2006年度からの2年間、学部長の重責を担いましたうえは、微力非才の身ではございますが、なんとか学部の力をまとめ、学部の発展のために精励いたす所存でございます。同窓会の会員諸氏におかれましても、なにとぞ厳しくも暖かいご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

経済学部学部長 平澤 典男



## 「今年も大学同窓祭を盛り上げましょう!!」

富田 直 ('93)

毎年9月23日に行なわれている大学同窓祭も今年で第13回目を迎えます。一人でも多くの卒業生に來場して頂き楽しんで頂こうと、実行委員を中心に様々な企画を考えていますが、経済学部同窓会としても同窓祭を大いに盛り上げるべく今年も協力していきます。

昨年は柳田常任幹事 ('69) が実行委員長 (今年は顧問) として、今年も副実行委員長に富田直幹事長 ('93)・大田原

真美会計委員 ('88) の二人が、そして開会礼拝委員長に中根紀弘副事務局長 ('92) と同窓会役員が活躍しています。

さらに今年も、第3回目となる石井信之副会長による公開講座を行ないます。(予告編以下掲載) ぜひご來場頂き一緒に楽しみ、同窓祭を盛り上げましょう!! 実行委員としてお手伝いしてくださる方、大募集中!!

### 第13回大学同窓祭公開講座

「懐かしの西部劇映画」 完結編予告 — 名作名場面集 — 2006年9月23日(土) 11:30より11号館にて開催予定

副会長・経済学部教授 石井信之 ('66)

第1回目 (2003.9.23)、第2回目 (2004.9.23) に続く第3回目 (2006.9.23) の内容は、全体的傾向とベスト・テンを取り上げた過去2回のまとめ、仕上げとして動く映像やスチール写真を駆使してビジュアルに展開していくものになると思います。最近におけるDVDソフト価格の大幅値下げによって名作ウエスタンムービーも500円程度で購入可能となりました。今後、皆様をご家庭で古典的名作西部劇を鑑賞される際の参考になればと思いお引き受けいたしました。

当日の内容については、代表的な西部劇の場面を構成しているサブ・テーマ別に名作の画面を挿入しながらお話ししたいと存じます。以下に、現在、考えている展開を列挙しておきます。

タイトルの名場面 (「荒野の決闘」、「真昼の決闘」、「ワイルド・バンチ」)、ファースト・シーン (「搜索者」)、ヒーローの歩く姿 (ヘンリー・フォンダ、ジョン・ウェイン、ゲイリー・

クーパーなど)、馬の疾駆 (ジョン・フォード監督作品)、スタンピード：牛の暴走 (「赤い河」)、ガンプレイ・決闘 (「シェーン」、「必殺の一弾」、「胸に輝く星」、「ワーロック」)、先住民対騎兵隊 (「壮烈第七騎兵隊」)、ダンスシーン (「荒野の決闘」、「アバッチ砦」、「シェーン」)、ラストシーン (「荒野の決闘」、「搜索者」、「墓石と決闘」、「明日に向かって撃て!」、「許されざる者」)

そして、西部劇映画の伝統を形成してきた男優・女優(主役・傍役)、監督、映画音楽作曲家についてはスチール写真で紹介し、それぞれの貢献度合いを簡潔にお伝えして、今後のDVD、Videoソフト鑑賞へのご参考に供したいと思っております。

当日はプロジェクターを使用し、ご説明を申し上げたいと存じます。過去2回の公開講座を補完するこの第3回目での完結と致しますので、どうぞ奮ってご出席ください。



## この選手にクローズアップ

磯部守孝（'78）

体育会に所属する経済学部の手選手にインタビューするこの企画の第3回は、昨年のインカレ（大学選手権）で優勝し、見事に日本一になられた女子バレーボールチーム監督の生瀬良造さん（1966卒）にお話しをうかがう事に致しました。

磯部：監督、インカレ優勝おめでとうございます。

生瀬：ありがとうございます。

磯部：17年ぶりの優勝とお聞きしていますが、その時と比べて感想はいかがですか？

生瀬：あの時は優秀な選手が何人もいてタイトルがとれましたが、今回は体格も小さくみんなの力の地道な積み重ねで優勝できましたから、17年前の優勝よりも感慨がひとしおです。

磯部：新聞の記事を拝見しましたが、決勝の相手の筑波大とは平均身長で9センチも低かったらしいですね。それを驚異的なレシーブで拾って繋いで優勝した、ということはさぞかし厳しい練習をしているのでしょうか。

生瀬：それがあんまり長時間の練習はしないんですよ（笑）一日3～3.5時間位でレシーブ練習も短時間しかやりません。自分自身の体験からもそうでしたが、あんまり長く厳しい練習をしてもそれがそのままプラスにはならないと思って集中力勝負の短時間練習をしています。

磯部：それは意外ですね。高校時代に有名な選手でもなく体格にも恵まれず、しかも厳しい練習をしないで優勝できた鍵はなんですか？

生瀬：そうですね、まあ選手達に自主性を植え付けさせることができたという事でしょうか？よく壁にぶつかると基本に戻る、とか言って基礎体力とか厳しいトレーニングをすることがありますが、僕のスポーツの基本とは「楽しさ」だと思っているんです。選手が楽しくない練習やトレーニングをいくらやっても、それでは疲れるだけで身に付かないんです。でもバレーをするのが楽しいと思えば、自分達からトレーニングやレシーブ練習もやって、拾えそうなボールも上げて攻撃に繋げることが楽しくなる。そういう事によってチームの一体感も生まれてくるんです。

磯部：なるほど、これぞ生瀬マジック！青学バレーの真髄なんですね。

ところで、監督になられて40年になられるそうですね。



生瀬：そうなんです、今年の二月で青山学院を定年になりましたがバレーの監督で同じチームを40年もみている人はいないらしいです（笑）

磯部：考えてみると凄い事ですね…。それに職員のお仕事をなさっている傍らで、選手集めから何から何までご苦労が多かったでしょうね。

生瀬：それが選手集めであまり苦労はしてないんです。春の高校バレーの会場が近いので練習にくる高校がよくありますが、練習が少ない場所もいいし大学生活も楽しめそう、と思って勝手に入ってくるんですよ（笑）

磯部：いえいえ、そうした明るいチームのムードを作られているのは監督ですから。

最後に、監督が大切だと心掛けていらっしゃる事はございますか？

生瀬：そうですね、いい選手という以前に立派な学生であって欲しいです。ですから試験前は1ヶ月は休みにしてありますので学業との両立は勿論ですし、人から信頼され尊敬される人物になって欲しいと願っています。

磯部：素晴らしいですね、是非今年も優勝される事をお祈りしております。本日はお忙しいところ本当に有難うございました。

帰り際に選手にもお聞きしましたが、本当に練習量が少なく、ミーティングも短いそうです。しかし生瀬監督の下で明るく楽しそうに練習に励んでいる選手達を見て、これが青学スポーツの理想なんだな、と幸せな気持ちになりました。

## INFORMATION

- ◆ 2006.4.20(木) 第1回常任幹事会  
(5月、7月、9月、11月、12月、3月、開催)
- ◆ 5.9(火) 会長杯ゴルフコンペ(越生ゴルフクラブ)
- ◆ 5.11(木) 講演会開催(会員拡大事業)
- ◆ 6.8(木) 2006年度総会・講演会・懇親会
- ◆ 9.23(祝) 第13回大学同窓祭
- ◆ 11.4(火) 会長杯ゴルフコンペ(越生ゴルフクラブ)
- ◆ 2007.1 幹事会(予定)

## AONサロン

## 「MITE BOXのお話」 副会長 天野知恒('56)

「MITE BOX (マイト・ボックス)」とは青山学院の礎を築いたスーンメーカー女史の母国アメリカのメソジスト教会で、献金活動に使った献金箱の名称に由来します。

(棚村 恵子著「しなやかに夢を生きる：青山学院の歴史を拓いた人 ドーラ・E・スーンメーカーの生涯」より。棚村 恵子氏は前女子短期大学英文学科非常勤講師)

「MITE」という単語の意味は研究社「新英和大辞典第5版」によると「小額ながら奇妙な寄付：すこしなから精一杯の努力：微力：貧者の一灯」などと訳されています。

「MITE BOX」とは一度に大きな金額を寄付する方法以外に、わずかでも心のかもった寄付を何度かすることにより、その意義について考え、祈りをささげる多くの機会を持つことを願い、用いられたようです。

経済学部同窓会は「青山学院EVERGREEN21募金」に協賛し「経済学部同窓会給付型奨学金」という冠奨学金を経済学部在学学生2名を対象に他学部同窓会に先駆けて募金が開始された2年前から提供しており、'06年度も継続提供を予定しています。

同窓会年会費(10年会費：終身会費)の納付率の向上次第で支援対象学生数を増やします。経済学部卒業生のご協力をお願いいたします。

今回、校友会本部より新たに提案された「募金協賛キャンペーン」にも積極参加したいと考え、具体的なアクション第1号として来る5月9日に実施予定の「同窓会親睦ゴルフコンペ」に集める景品代3千円を3千5百円に値上げし、差額の5百円を参加会員の承認のもと「ONE COIN DONATION」として「EVERGREEN21募金」の種類「フリーコース」に寄付することにしています。まさしく「MITE」の趣旨に適った寄付ではないでしょうか。今後も「MITE BOX」の考えを生かした試みを実施する予定です。

## 「新しいコミュニティの将来」

会長 森 啓('58)

現在、経済学部同窓会会員は約4万人であります。実際のアクティブ会員としての登録は約1,700名そのうち会費納入者は約700名であります。この数字は当同窓会のみでなく、全国の各学校の同窓会も同じ状況であると聞いています。また一般社会での町内会でも昔のように助け合う現状ではないと言われてます。

このようなコミュニティの崩壊を日本社会の重要な問題の一つとして社会学者は警告しているわけであります。

同窓会にしても、あの懐かしい螢の光を代表する同窓会、誇りとグループ意識をいつまでも保とうとする特別な努力はもはや過去のものとなりました。

又、単なる仲よし小グループだけでは成り立っていかないと認識しなければなりません。今こそ本当の同窓会はどうあるべきか真剣に考えるべきであります。

この解決に沿った2,3の事例を当同窓会の常任幹事の皆さんで実行することになりました、一例は二年前から始めた学生への奨学金制度の設立であります。現在は2名ですがこれが10名となり、50名、100名となり20年後には経済学部学生の半数の300名に制度の恩恵を与えたいわけであります。

その時の経済学部および同窓会の位置づけはどのようなのでしょうか。想像するだけでも胸ときめくことはありませんか。

昨年度から当同窓会主催で講演会を立ち上げました。第三回目の講演も(5月11日(木))新聞TV等で引っ張りだこの新進気鋭のエコノミスト上野泰也氏です。毎回超一流の講師に来ていただいています。上智大学ではライス米国務長官、関西学院大学ではパウエル前国務長官が講演されました。そして学内のみならず、政治、経済界からも注目を浴びました。我々の講演会も学内だけでなく全国の知識人から注目を浴びるに値する内容を企画しようとしています。

皆さん我々の意図するところを理解いただき、是非と一緒に経済学部同窓会をさらに盛り上げようではありませんか。

## 編集後記

中根紀弘('92)

今年めでたく卒業された皆様おめでとうございます！これからの皆様のご活躍を心からお祈りしております。また、同窓生として社会にそして母校青山学院へも貢献して頂きたいと願っております。

今回のテーマは同窓会が行なっている活動報告です。同窓会発足当初は組織の確立、会報誌オイコスノモスの発行と名簿の作成が具体的な活動でありましたが、依然として会員に見えてこない活動状況を如何にお伝え出来るか？に答える為、今回は森会長を筆頭に新体制に移ってから具体化した事例を皆様に御報告する事にいたしました。今回の編集で気付いたのは、東京で行える具体的な活動に重点が置かれた1年であったことです。これからの課題は遠方の会員の方々に同窓会としてどう貢献ができるのか？であります。現時点では地域を超えて情報を伝達出来る本誌及びホームページの活用が重要であると感じております。現在ホームページは運用方法の改革を進めております。また、校友会のメッセージボードへも団体登録いたしました。同窓会の活動状況をお伝えする手段としてこれから活用してまいりますので、会員の皆様もお気軽にご意見をお聞かせ下さい。これからも更に内容も充実させていきたいと思っております。

青山学院大学経済学部同窓会会報 第11号

2006年4月1日発行

発行者 森 啓

発行所 青山学院大学経済学部同窓会

(青山学院大学経済学部・石井信之研究室)

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-8111 (内線12817)

www.econ.aoyama.ac.jp/dousoukai/toppage/index.html

皆様からの情報やご投稿、入会申込、会費納入等のお問合せは下記へ！

〒150-8691 渋谷郵便局 私書箱145号

aogaku-kei.dosokai@jcom.home.ne.jp